

あの日から5年 鎮魂の祈り



①犠牲者を悼んで黙とうをささげる
②ガーデンに花を植える参加者

多くの尊い命が奪われた東日本大震災から5年。県と市の合同追悼式が3月11日、いいおかユートピアセンターで開かれました。遺族ら約240人が参列し、犠牲者を悼んで黙とうがささげられたほか、献花などが執り行われました。あさひ少年少女合唱団が「ふるさと」など2曲を合唱すると、涙ぐみ聞き入る遺族の姿がありました。

いいおか潮騒ホテルでは、市民団体が「3.11を継承する集い」を開催。会場では鎮魂の祈りをささげるとともに、花で笑顔と元気を取り戻そうとビオラやストックなどの花のポットが販売され、参加者は復興への祈りを込めたメッセージを添えてガーデンに花を植えました。

旭市津波避難訓練

あの日を教訓を後世へ

津波避難訓練が3月6日、沿岸地域を対象に行われ、千人を超える地域住民が参加しました。午前9時に防災行政無線やエリアメールなどで避難指示を伝え、参加者は小学校や津波避難タワーなど24か所の避難場所に避難。震災で浸水被害を受けた飯岡中では、移転後の新校舎で初めての訓練が行われ、校舎の外階段から屋上の避難スペースに上る経路を確認しました。

参加者は「あの日を忘れないために、これからも訓練に参加していきたい」と話していました。



飯岡中の屋上に避難する参加者

高齢者叙勲

旭日単光章

(自治功労)

伊藤龍之助さん 88歳(飯岡)



昭和58年に飯岡町議会議員に初当選し、以来3期、通算12年にわたり、豊富な経験と卓抜した識見をもって地方自治の発展に尽力されました。この間、町議会副議長などの役職を歴任し、町政の重要案件はもとより、産業の振興、都市基盤の整備や社会福祉の向上に努め、町の発展に貢献されました。

2 飯岡地域で宝探しイベント開催！



宝箱をのぞき込む子どもたち

宝箱に書かれたキーワードを集めると、抽選で賞品が当たるイベント「リアル宝探し」が今年も飯岡地域で開催されました。ヒントが書かれた地図を手に、宝箱の隠し場所を巡る

参加者たち。宝箱を全て見つけ出し「ちょっと難しくて面白かった」とほほ笑む親子の姿がありました。

3 小中学生がポスターで防火を呼び掛ける



(後列左から)渡邊さん、鈴木さん
(前列左から)小川くん、柴田さん

広く防火を呼び掛けようとしている、市内小中学生による防火ポスター展。各学校から選出された210点の中から最優秀作品(旭市長賞)に輝いた、小川大翔くん(中央小・4年)、柴田和奈さん

(中和小・5年)、渡邊み来さん(飯岡中・1年)、鈴木愛依李さん(飯岡中・2年)に賞状が贈られました。

3 子どもの学びを支援する旭3S



発表する千瀬小の児童

市内小中学生が社会貢献活動を積極的に展開するため助成金を提供する、旭・学び助成金(旭3S)の活動報告会が東総文化会館で開催されました。活動発表をしたのは過去最多

となる12校の児童生徒。発表を終えた児童は「自分の学校以外でもこの活動が広がっているのを知った」などと話していました。

東日本大震災5周年記念チャリティー「郷土の詩人高橋順子講演会」

震災を詩で語り継ぐ集いが開催、文芸賞の創設も



朗読を行う高橋さん

飯岡町出身で詩人の高橋順子さんの講演会が2月27日、東総文化会館で開催されました。高橋さんは津波などを題材にした詩集から数編を朗読。小中学生や高校生などによる詩の朗読、コーラスや紙芝居なども行われ、多くの来場者が会場を訪れました。またこの日は、震災を語り継いでいこうと、旭いいおか文芸賞「海へ」の創設も発表され、高橋さんが審査委員長に就任しました。

二中「黒板ジャック」

卒業前の黒板に巨大アートが出現



作品の前で後輩に思いを伝える鈴木さん

生徒が登校すると、黒板全面にチョークで巨大なアートが描かれている黒板ジャックが3月3日、二中で行われました。同校の卒業生である鈴木蘭菜さんを中心とする武蔵野美術大学の学生が、前日の放課後から6時間以上かけて、卒業を目前にした3年生の8教室に仕掛けたサプライズ。黒板に描かれた迫力のある絵を前に、ぼう然と立ち尽くしたり「何これ?」と各教室の作品を見て回ったりする生徒の姿がありました。

最後に鈴木さんは、後輩たちを前に「自分の将来に期待してほしい」と夢を持つことの大切さを伝えました。